



こんにちは地域包括支援センターです

認知症について～本人、家族の取り組み～



みなさんは「認知症」という言葉にどのような印象をもっているでしょうか？

以前は、認知症になったら「何もわからない、できなくなる」「おかしい言動でまわりが困る」「本人のことはまわりの人が決める」という考え方がありました。その後、認知症と診断を受けた本人（当事者）が自分のできること、まわりの人にどのように関わってほしいか等伝える機会があり、「認知症になってもわかること、できることがある」「本人の言動には意味がある」「（まわりの人は）本人のことは本人が決められるように手伝う」という認知症観が広まり「認知症があっても自分らしく暮らしていける」との考えに変わってきています。

認知症の方本人の活動について、認知症本人大使「希望大使」という言葉を聞いたことがありませんか。現在、全国で認知症になっても希望を持って暮らしていけることを本人が発信する「希望大使」の活動が取り組まれており、北海道では「ほっかいどう希望大使」として令和7年度3名の方が任命されています。年齢は50代、

70代で、診断までの経過や診断後の生活について講演会や研修会などを通じ発信しています。診断後も仕事をしていたり、コンサートを開いたり「認知症になってもできることがある」「記憶に残る感情は楽しいものの方が良い」と活動していますので、関心のある方は北海道ホームページをご覧ください。

また、認知症や介護について学ぶ機会として、地域包括支援センターでは令和5年から認知症に関する映画上映など認知症講演会を開催しています。今年度は7月に映画「ぼけますから、よろしくお願ひします。」の上映と監督講演会を開催します。認知症の母と介護する父を娘である信友直子監督が記録したドキュメンタリー映画です。何でもできていた母が色々できなくなってきた、母を支えることと決め95歳で家事を行う父の姿。認知症になった人の不安、家族の戸惑い、互いを思いやる姿など認知症の患者を抱えた家族の内側が描かれた作品です。当日は信友監督による講演会もあり、認知症について学ぶ貴重な機会となりますのでぜひご参加ください。

道内の 認知症理解促進

道及び市町村、関係団体は「ほっかいどう希望大使（認知症本人大使）」のみなさんが無理なく活動しやすい状況を実現しながら、地域における認知症への理解促進を深めていきます。

＼知ろう！考えよう！／
認知症のこと。

認知症の人が安心して暮らせるまち・北海道を目指して。

北海道 認知症

検索

認知症とともに生きる。

地域みんなの力で支え合い、つながる社会。

一人ひとりに知って欲しい、認知症のこと

北の大地で希望を持って認知症とともに暮らす。



予告

- 7月9日（木） 社会福祉会館大ホール
- ・映画上映 「ぼけますから、よろしくお願ひします。」
- ・監督講演会 信友 直子氏
- ※詳しくは後日回覧にてお知らせします。

